

令和6年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、四字熟語、慣用句等の語彙定着のための継続的な取り組みをすること。 読み取り問題において、文章中からそのまま抜き出すのではなく、自分で考えて記述すること。 文章や段落において何を伝えようとしているのかを読み取り、まとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の反復練習や辞書を使った意味調べを行い、継続的な確認テストの実施をする。【発見】 個人、グループといった段階的な活動を基に、自分で考えることとクラスメイトの考えと比較することで学びを深めていく機会をつくる。【対話・表現】 本文の要点やその根拠となる部分にチェックをするなどの読解の流れを可視化する機会をつくる。【発見】 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで問われていることを把握し、学んだ知識や考え方を活用する力を伸ばすこと。 何をしてよいか分からない等、困ったときに自分から助けを求めたり、相手に分かりやすく説明したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストのための学習課題として、教科書を一人で読んで書かれている内容を理解させる。【発見・決定】 授業時間内で問題演習の時間を確保し、途中の式や考え方を発表する機会を増やす。【対話・表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを積極的に表現する力を伸ばすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章による表現、スケッチやICT機器を用いた表現、言葉による表現など様々な表現方法を学習内容に応じて計画し、実行する。【決定・表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、思考力・表現力・判断力の育成に課題があったため、向上を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを他者に表現したり、他者とともに考えを深めたりする活動を通して、思考力・表現力・判断力を伸ばすこと。【対話・表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現の活動を充実させること。 感受の能力を伸ばすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な達成事項を提示し、達成できた時の成就感を味わわせる。【決定・表現】 鑑賞において気付きのポイントが、明確になるようなワークシートを作成する。【発見・対話】 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 美術に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、その表現手段が乏しいため、基礎的な表現能力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の使い方や筆の使い方、絵の具の使い方、もの見方など、今後作業していく上で必要な基礎基本の定着を図る。【表現・発見】 タブレットの活用や生徒同士の対話を通じて、発想を膨らませる時間を確保する。【表現・対話・発見】 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 技術に対して意欲的に取り組む生徒が多い。 適切に組み立てができるよう手順を考えて組み立ててを行う。 完成した製作品が設定した課題解決をできるか評価すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料取りの仕方・工具の使い方・加工方法の説明を行う。特に安全面には留意する。計る・揃えることの重要性に気付かせる。【表現・発見】 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正できるようにする。【表現・対話・発見】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をもって授業に臨む生徒が多い。しかし、「学んだ知識や習得した技能を、実生活に生かそう」という気持ちが見えない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に関連付けた「本時の目標」や課題を提示し、自分事として課題を捉えさせるようにする。【発見・決定】 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 授業に積極的に取り組む生徒が多いが、基礎体力が付いている生徒と十分ではない生徒との二極化が見られる。 自分で課題を見つけることが苦手な傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で補強運動を行い、基礎体力を高める。【決定・表現】 ICT機器を活用し、運動の動画をペアやグループで確認させ、課題や解決策等を話し合う時間を設ける。【発見・対話】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとのGoalから授業内容をデザインする。生徒が主体的に活動に取り組む態度を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各Unitを学ぶなかで、生徒に身に付けさせたい力を各Unitに入る度に設定し、内容に応じたパフォーマンステストの機会を設ける。【発見】 パフォーマンステストに応じた帯活動を実施する。【発見・対話】 学習アプリやデジタル教科書などの活用の充実を図り、生徒が能動的に活動する時間を増やす。【決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 単元途中で生徒の意見をフィードバックする時間をつくることができていないので、理解できていない生徒はできないまま単元が終わってしまっている。 具体物や視聴覚教材の使用頻度が少ないので、生徒の興味・関心を引くことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文学的文章において、作中の表現の効果を考える指導を行えていないので、重点的に指導したい。【表現】 理解できていない生徒を把握するために、途中で意見をフィードバックする時間をつくる。【発見】 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学習内容の定着を図ること。 問題文の読解力や説明する力を伸ばすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 副教材等を活用しながら、繰り返し取り組む習慣を付けることで、自ら学習できる機会をつくる。【決定】 話し合い活動や発表の場を増やすことで、自らの考えを伝える機会をつくる。【対話・表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考える力や科学的な観察力、考えを言葉で表現する力がない生徒が多い。 実験の指示を集中して聞けていないことが多くある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の復習を丁寧に行い、必要に応じて導入実験などを行い確認しながら授業を進めていく。【発見】 ICT教材やプリントを工夫し自分の言葉で説明できるように段階的な指導をする。【表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を組み合わせて考察すること。 班やグループでの話し合いを発展させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題となるのは、【対話】→【決定】に関する部分の流れが少なかったことが挙げられる。したがって、単元構成を生徒と共有できるようにし、流れを明確にする。例えば、1学期の学習を踏まえて、学習対象を拡大し、現在の社会問題をつかみ（【発見】）、分析するために話し合い（【対話】）、その結果を踏まえて克服策等を選択・判断し（価値判断・意思決定【決定】）、自分の考えを説明する（【表現】）など、学びのプロセスを共有していく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現の活動を充実させること。 感受の能力を伸ばすこと。 楽譜の知識を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な達成事項を提示し、達成できた時の成就感を味わわせる。【決定・表現】 鑑賞において気づきのポイントが、明確になるようなワークシートを作成する。【発見・対話】 音名、リズムに焦点を絞ったワークシートを作成する。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現手段の乏しさを改善するため、様々な技法を知り、表現能力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で教え合える雰囲気大切に、その時間を意識的に確保することで、表現に幅をもたせる【表現・対話・発見】 西洋絵画の技法を学び、技法をできるだけ具体的に丁寧に説明し、判断材料を増やすことによって自ら主体的に取り組めるよう働きかける。【表現・発見】 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 技術に対して意欲的に取り組む生徒が多い。 適切に組み立てができるよう手順を考えて組み立てを行う。 完成した製作品が設定した課題解決をできるか評価すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料取りの仕方・工具の使い方・加工方法の説明を行う。特に安全面には留意する。計る・揃えることの重要性に気付かせる。【表現・発見】 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正できるようにする。【表現・対話・発見】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 自分からヘルプを出すことが苦手な生徒がいるが、一人一人に丁寧な個別指導を行う時間が多くとれない。 見通しをもって作業に取り組むことが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材やプリントを工夫して端的に説明することで、全体指導で理解する生徒を増やす。また、班ごとに教え合い学習ができる環境をつくる。【対話】 連続した授業を行う際には振り返りシートを用いて見通しをもたせるようにする。【決定】 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果から、全国平均よりも低い傾向がみられた。特に男子の方が低い。 自分の意見ももっていても、相手に伝えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で補強運動や種目に合った補助運動を行い、基礎体力を高めていく。【発見・決定】 課題解決に向けての話し合いや、それに向けて行動や表現ができるような時間を設定する。【対話・表現】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> リンキングやイントネーションなど、英語らしい発音への意識が乏しい。 やり取りにおいて、質問には答えられるが、自分の考えを即興で加えることができない生徒が多い。 英語を読む、書くことに対し時間を書けてしまう生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の音声や、モデル動画の発音をパフォーマンステストに関連させ、英語らしい発音への意識づけ、発見を促す。【発見】 英語での chat テストを設定し、質問に答えるだけでなく、自分の考えを表現する力を養う。【対話】【表現】 授業等で英語を使う機会を増やし、読むことにおける聞かれたことに対する回答、書く内容を迅速に決定し、アウトプットできる力を養う。【決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を踏まえて、自分の意見を話したり書いたり、発表したりすること。 自分で考え、課題を発見し、選択肢の中から自分にあったものを選ぶこと。 一つの課題に対して、様々な角度から考え、自分の意見を伝え合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な単元の中で、時間をしっかりと確保し、自分の意見をグループで伝え合う、短い文章で書く練習を繰り返し行う。【表現】 決められたことを行うだけでなく、自ら考えて選ぶ課題を増やす。【決定】 各単元の学習過程において、お互いの意見文を読み合うことや考えた意見交換する。【対話】 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 計算力などが付いてきたが、思考・判断・表現を問う課題を苦手としている生徒が多い。 図形の分野では、問題分に応じて、具体的な図をかくことができず、課題解決につなげられない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、既習事項を適宜復習することで授業内の理解を高める土台とする【表現】 授業ではグループ学習や話し合い活動などを適宜取り入れていく。【対話】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な知識の理解は早い生徒が多い。しかしながら、その知識から科学的考察につなげることができない生徒が多い。 レポート等で、実験内容をまとめ表現することはできる。しかしながら、科学的、理論的にまとめ上げるまでには至っていない生徒が多い。 実験の指示は、よく聞いているが、その理解に乏しく誤った操作をする生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな角度から科学的問題にアプローチさせ、科学的結論に導く方法を考えさせることで、考察力を身に付けさせる。【決定】 生徒間でレポートを共有させ、色々な表現方法を学べるようにするとともに、結論へのアプローチの仕方についてディスカッションさせる。【対話】【発見】【表現】 実験操作の説明を、動画や実物投影機などを用い、視覚的にも理解できるよう工夫をする。【発見】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を組み合わせて考察すること。 班やグループでの話し合いを発展させること。 資料読み取りの際の思考力と表現力を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話を行う中で、班や生徒の解答を深掘りしていき、思考力と表現力を伸ばしていく。【対話】 授業の中や試験問題で複数の資料を組み合わせた読み取りを行っていく。【発見】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現の活動を充実させること。 感受の能力を伸ばすこと。 楽譜の知識を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な達成事項を提示し、達成できた時の成就感を味わわせる。【決定・表現】 鑑賞において気付きのポイントが、明確になるようなワークシートを作成する。【発見・対話】 拍子、リズムに焦点を絞ったワークシートを作成する。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作に対して前向きに取り組む雰囲気は出来ている。一人一人がもう一步先の表現を求め、習得していく粘り強さが必要である。また、作品を制作する上で進度に大きな個人差ができてしまうことも課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで培ってきた基礎的な技能、表現能力を生かせる発展的な課題設定を心がける。個別指導の充実。進度の差については作品が完成するまでにいくつかのステップを用意し、その都度足並みをそろえられるよう工夫する。【表現・決定】 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 技術に対して意欲的に取り組む生徒が多い。 適切に組み立てができるよう手順を考えて組み立てを行う。 完成した製作品が設定した課題解決をできるか評価すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料取りの仕方・工具の使い方・加工方法の説明を行う。特に安全面には留意する。計る・揃えることの重要性に気づかせる。【表現・発見】 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正できるようにする。【表現・対話・発見】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 集中して授業に取り組むことが苦手な生徒がいる。 学んだことを、実生活と結び付けて捉えることが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動や体験活動を増やし、興味をもって授業に臨めるような授業展開を行う。【対話】 実生活に関連づけた「本時の目標」や課題を提示し、自分事として課題を捉えさせるようにする。【決定】 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動部に所属している生徒などと運動経験が少ない生徒で運動能力が二極化している傾向がある。 得意な種目と苦手な種目が極端な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返りの時間をとることで、自分の得意不得意を見つめて改善につなげられるようにする。【発見・対話】 単元ごとの基礎練習を楽しんでたくさんできるように、その種目に合ったものを考え実施させる。【決定・表現】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの Goal から授業内容をデザインする。生徒が主体的に活動に取り組む態度を向上させていく。 スピーキングテストに向けて、即興で話す力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各 Unit を学ぶなかで、生徒に身に付けさせたい力を各 Unit に入る度に設定し、内容に応じたパフォーマンステストの機会を設ける。【発見】 学習アプリやデジタル教科書などの活用の充実を図り、生徒が能動的に活動する時間を増やす。【決定】 帯活動でスピーキングテストに向けた即興で話す機会を設ける。【発見・対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。